

## 共生社会の実現に向けて障害者理解を全国に広めるための『啓発キャラバン隊』づくり研修会が開催されました

法人事務局 道畑 有美香

3月12日に東京で「共生社会の実現に向けて障害者理解を全国に広めるための『啓発キャラバン隊』づくり研修会」が開催され、福島育成園支部の啓発活動をされている加藤さんと参加してきました。

以前より各地区の育成会では、知的障がい・発達障がい理解を社会に広めていくため、学校や地域団体等に向けて啓発キャラバン隊活動を行っていました。

全国手をつなぐ育成会連合会では、親の会だからできる活動であり、差別解消のために大きな役割を担うものと考えています。地域によっては未設置のところがあり、これらの活動をさらに広めていくために知ってもらうことが必要で、この研修会が開催されました。

まず、関谷弁護士による「学校における障がい理解の啓発について」の講演がありました。従来より、各市町村の学校では「心のバリアフリー」として、人権教育の推進も含めて取り組まれてきた経過があります。幼少期から多様性について疑似体験等で理解することにより、将来、お互いの良さを認め合うことの「気づき」や「思い」につながり、興味がある人だけではなく多くの子どもたちに伝えることができるため啓発キャラバン隊の活動は有効と話されていました。

その後、キャラバン隊の実演では、山形県の「花笠ホープ隊」、兵庫県の「まんまるはーと」、広島県の「あび隊」、千葉県「空」の方々が、どのような内容を伝えているか、観客を取り込む方法について話されました。内容では、寸劇や、紙芝居、ビデオで障がいについて伝えたり、親や兄妹の気持ちを話すなど様々な工夫を凝らした内容でした。

午後の部では発表された各チームの方をシンポジストにしたシンポジウムが行われました。「啓発隊を作って地域がどう変わったか?」「これから啓発隊を作る所へのアドバイス」、「これからの育成会を語る」をテーマに関谷弁護士と意見交換が行われました。

今回の研修を受講して、啓発活動と聞くと気おくれしてしまう感じでしたが、演じる側が明るく楽しく元気に活動することで、見てくれる方々が楽しみながら少しでも知的障がいや発達障がいの理解につながればと思いました。

もし啓発活動に興味がありましたら事務局までご連絡をいただきたいと思います。



## 会員交流会「手作り講習会 レザークラフト」を開催しました

3月の会員向け勉強会は交流会として「手作り講習会レザークラフト」が行われました。革製品の制作がご趣味の港第二育成園の窪田施設長に講師をお願いし、三角形の可愛いらしい小銭入れの仕上げの作業を教えてくださいました。



革をカットした切り口(=コバ)は毛羽立っていますが、専用の仕上剤を塗って磨き棒や帆布で繰り返し磨くことで、手触りが良くなり光沢が出てきます。どのくらい磨けば良いのだろうと思いつつ、ひたすら手を動かしていましたが、窪田施設長はこの作業を何時間も無心で続けるそうで、出来上がりのクオリティが違ってくる大切な技なのだ分かりました。

そして小銭入れが完成した次にもう一つ、名刺を入れられるケースも作らせて頂きました。レザークラフトの手縫いの基本ともいえる「平縫い」の体験です。針を取り付ける為に、糸の撚りの真ん中に針を刺して玉止めの代わりにする作業は、細かいものが見えない私達には苦行でしたが、何とか糸の準備が出来、予め開けてもらっている穴に規則正しく針を通していくと綺麗なステッチが出来ました。革に合わせて好きな色の糸を選ばせて頂いたので世界で一つの作品が完成し